

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 222 2015年 12月発行

第3回地本OB会事務局長会議報告

最後の会議に惜しむ声も!

来期からブロック別三役会議を充実



激励の色紙を持って、みんなでガンバろう!

秋も深まる11月18日13時より、JR東労組本部大会議室で「第3回地本OB会事務局長会議」が開催されました。
この会議では、当面する取り組みの「たしろかおる応援プロジェクト」、「OB会組織の強化・拡大」等を議論しました。
またこの会議では、来年以降の開催を取り止め、「ブロック別地本OB会三役会議」を充実させることで、各地本OB会の事務局長さんの意見を反映させていく事になりました。

会議は廣瀬副会長の司会で始まり、戸谷副会長の座長で進められました。挨拶に立った古川会長は、JR東労組がかかえている諸課題の取り組みの現状を報告した後、野党の再編成を巡る政治動向や「沖縄と連帯する旅」の取り組み状況などを話しました。
その後伊藤事務局長が、「たしろかおる応援プロジェクト」が取り組んでいる「たしろかおる紹介者カード」の中間集約と「OB会組織の強化・拡大」の取り組みを提起した後、来年以降の「地本OB会事務局長会議」を

やめて「ブロック別地本OB会三役会議」に集約していく考えを示しました。

全員が意見発表

討論では、全ての参加者から「たしろかおる紹介者カード」の取り組み状況や事務局長としての「悩み」等も報告されました。

その結果、「たしろかおる紹介者カード」の取り組みを更に加速させるために、各地本OB会事務局長がOB会員の最先頭に立って「目に見える具体的な行動」を行っていく事が確認されました。

また来年以降の「地本OB会事務局長会議」については、「ブロック別地本OB会三役会議」の開催時間を拡大する事で、各地本OB会の事務局長さんの意見を反映させる事で集約されました。

復帰を待っています

また、この日の事務局長会議に療養のため出席出来なかった事務局長と、三年前にこの会議の開催を提起した元事務局長に、一日も早い病気の完治とOB会運動への復帰を願って、激励の「色紙」を取り組みました。

- ◇ 自動車・傷害・火災・旅行
ゴルフの各保険
- ◇ ガン・医療の各保険のご用命は

JR東労組の賛助団体

鉄道ファミリーへ

フリーダイヤル **0120-49-8810**

「我らの声」(第17号) 原稿募集中

◇ 募集期間 **2015年12月1日より
2016年1月31日まで**

作品は1人1編で、1600字以内とします。
なお、写真を必ずつけて下さい。
特に初めての方や、「俳句」「川柳」は大歓迎です。
作品は、必ず各地本OB会に提出して下さい。



上信越ブロック交流会報告 歴史遺産を訪ねる

10月27、28日上信越ブロック三地本OB会の交流会が、40名の参加者で開催されました。

二日間の交流会の行程は、高崎駅前からこんやくパーク―富岡製糸場―伊香保温泉(泊)―めがね橋―鉄道文化村―高崎駅です。

一昨年世界遺産に登録された富岡製糸場では、当時の面影に浸りながら見学しましたが、頭の中はもう夜の宴会に行っていた人もいました。

大宴会では2年ぶりの中島太夫の踊りに盛り上がり、紙に書いた一万円を太夫の胸に挟む人、トイレレットペーパーにくるんだ「おひねり」の乱舞。新潟・長野の銘酒もあったという間に空になって、大宴会は盛況の内終了しました。

二日目は碓氷峠の熊ノ平へ、アプト時代の土砂崩れの犠牲者に黙祷した後、20分程でめがね橋に到着し、紅葉の碓氷峠に大満足しました。その後鉄

道文化村で昼食後、展示してある懐かしい車

両に「これ、乗ったことがある」と思いついた話に話が弾みました。文化村では、OB会の仲間達が元気に働いていました。

最後に高崎駅に戻り、来年の再会を約束し散会しました。



東関東ブロック交流会報告 晩秋の房総で親交を深める

東関東ブロック三地本OB会の交流会が11月19日、晩秋の房総「生命の森リゾート」に、62名の会員が参加して開催されました。

準備を担当した千葉地本OB会の斉藤副会長は、「今年は、豊かな自然の中で親睦を深めることを考え企画した」と挨拶し、続いて本部OB会の古川会長は

「我々に与えられた時間は少ない。生命を大切にす闘いを共に闘おう」と参加者に呼び掛けました。

今回の交流会では「週刊金曜日」の北村 肇社長を招き、「参院選に向け考えるべきこと、すべきこと」と題した講演を受けました。北村氏は「安倍政権は戦後最悪だ。平和で、命が大切にされる日本を取り戻すため、来夏の参院選で自公政権を倒すことが大事。そのために事実、真実を伝え騙されないように。そして60代ががんばり、少しでも良くして次世代に引き継ぐ」と参加者に熱く訴えかけました。

講演会後、会場を旧スイス大使館を移築した「翠州亭」で、交流会を開催しました。

庭園を眺めながら、参加地本等の決意表明があり、交流会は盛大な内に終えました。

最後に記念写真を全員で撮り、来年また元気で再会することを約束し散会しました。



わが町の 有名人

八王子地本OB会 今月は、八王子地本OB会 の加藤秀八さんを紹介いたします。

加藤さんは中央線の運転士をしてきたJRを退職した後、甲府支部OB会の結成に携わり、以後OB会活動の傍ら、現在甲府城のボランティアガイドをやっています。

甲府城は武田家滅亡後、豊臣秀吉の命令で築城された6万坪の広い城でしたが、明治時代に取り壊わされました。その跡地に、

甲府城の名ガイド

せん。

ガイドを始めて8年になりました。ガイドを始めて8年になりました。ガイドを始めて8年になりました。



近隣の観光地の案内もしたりして「優しい親切なガイドさん」として有名になっていきます。

昨年は新人ガイドの教育を担当し、人を育てる難しさを痛感したそうです。

健康を考えガイドを始めたそうですが、それによって仲間が出来た事や、客観的な立場で話が出来、OB会活動にも役立って良かったと話してくれました。

(甲府市在住・加藤 秀八・78歳)

水戸

水戸地本OB会は11月15日、昨年に引き続き笠間市北山公園で2回目のバーベキューを実施しました。前日に買い出しをし、準備をしました。

当日は天気予報通りの雨だったので、参加者は減り予定の半数の12名でした。しかし参加したOB会員と来賓の方々の熱気で、午後からは雨が上がりました。

地本OB会鈴木会長と本部OB会廣瀬副会長の挨拶で、たしろかおる参議院議員の支援の現状と、これからの取り組みに向けた協力体制づくりの重要性を意志統一し、乾杯後、バーベキューで楽しい懇親会が始まりました。

寒いのでトン汁や熱燗を用意したところ、外で飲む熱燗は粋なものでした。予定時間をオーバーしたものの、久しぶりに会った旧友と親交を暖め合った後、「又来年元気で会おう」と約束して散会となりました。

今後はより多くの参加者を集め、レクリエーションを通じた会員相互の親睦と会員の拡大に取り組んでいきます。(水戸地本OB会)

横浜

横浜地本OB会は、11月10日29名の参加者で、日吉台地下壕(慶応義塾大学日吉キャンパス)の平和研修を行いました。

日本政府・軍部は、1941年12月8日米英に宣戦布告し戦争を優位に進めていましたが、1942年になって、ミッドウェイでアメリカ軍に敗れた以降は戦争の主導権を失いました。

東京

10月31日恒例の秋レクを97名の参加者で開催しました。今年は新宿支部OB会の準備で、本部のお膝元の「新宿御苑」を散策しました。

当日は、13時に「千駄ヶ谷駅」に集まり若干肌寒い陽気でしたが、OBの元気と笑いで曇り空を吹き飛ばしました。

「新宿御苑」は都心のオアシスです。緑の庭園が整備されていて、バラや寒桜など秋の彩りもさることながら、温室の観葉植物も一見の価値ある所です。

懇親会は、本部のあるJR新宿ビルB1のレストランで、和気あいあいの中始まりました。100均の景品で、楽しいゲームもしました。また新宿支部の現役が、全面的なバックアップ体制で臨んでくれました。

この交流会では、「たしろかおる応援の取り組みに全力をあげよう！」と発言が相次ぎました。

なお、会場では「辺野古基金カンパ」を取り組み、43,205円が集まりました。

(東京地本OB会)

各地本OB会がレク・研修を開催

日吉台地下壕は、その様な状況下の1944年8月に造られました。爆弾が落ちて簡単に壊れない延長2600mにも及ぶ(東京ドーム3倍)極秘の地下壕でした。

参加者は、沖縄戦にも敗れ戦局に全く展望のない中で兵士達の尊い命を顧みず、この日吉台地下壕から「玉砕」させるための発信を行ったかと思うと強い怒りを感じました。

研修後は参加者全員で懇親会を開き、安倍政権が進める戦争法に反対する闘いを、横浜地本OB会からもしっかりと創り出すことを確認し合いました。(横浜地本OB会)